

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけとは

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合に、半日程度前から、気象情報において、「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけます。

顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表。

1. 前3時間積算降水量(5kmメッシュ)が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
2. 1の形状が線状(長軸・短軸比2.5以上)
3. 1の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
4. 1の領域内の土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)において土砂災害警戒情報の基準を超過(かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上)または洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)において警報基準を大きく超過した基準を超過



▲キキクル
(危険度分布)

※情報を発表してから3時間以上経過後に発表基準を満たしている場合は再発表するほか、3時間未満であっても対象区域に変化があった場合は再発表します。

(引用：国土交通省気象庁ホームページより)

問 企画調整課 生活安全係 ☎22-1152



防災 トピックス

線状降水帯の発生予測 精度向上への取り組み

線状降水帯は次々と発生する積乱雲により、線状の降水域が数時間にわたってほぼ同じ場所に停滞することで大雨をもたらします。近年、線状降水帯による大雨によって、甚大な被害が生じる機会が多くなっています。気象庁は線状降水帯発生予測精度の向上に向けた取組みを実施しており、令和4年6月から全国11ブロックに分けた地域を対象に半日程度前から線状降水帯による大雨の予測情報の提供を行っていましたが、令和6年度からは、府県単位で提供を開始しました。

大雨が予想される際は、メディアを通じて発信される情報を活用して、家財道具を2階へ上げておく、避難準備を行うなど、早めの行動に心がけましょう。

消防署だより Fire Station Information

火の取扱い・花火による火災の予防

バーベキューや花火など、家族や友人と楽しむ季節になりました。火を取扱う場合は次のことを守り「安全に」楽しみましょう。

- ・取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を守って行う。
- ・水バケツなどを用意してから行い、完全に火が消えるまで後始末をする。
- ・燃えやすいものを火から離してから行う。
- ・子どもの手の届くところにマッチ・ライターを置かない。一人で触らせない。



問 不破消防組合消防本部 ☎23-2030



警察通信 Police Information

夏の交通安全県民運動 思いやり ゆずる心で 事故防止



夏の交通安全県民運動は、県民一人ひとりが交通ルールを遵守し、思いやりやゆずりあいの心を持って交通マナーを実践することにより交通事故の防止を図ることを目的としています。次の重点項目を確認し、交通事故防止につとめましょう。

▶期間／7月11日(木)～20日(土)

- ▶重点項目／
- ・子どもと高齢者の交通事故防止
 - ・自転車などの安全利用の促進
 - ・横断歩道における歩行者最優先の徹底
 - ・飲酒運転などの危険運転の根絶

問 垂井警察署 ☎22-0110